令和３年度学校関係者評価委員会議事録

学校法人常松学園札幌工科専門学校
学校関係者評価委員会

議題

令和３年度後期の実施状況報告と令和４年度の改善方針

１．開催日時　令和４年５月１４日（土）１０：００～１１：００

２．場　　所　札幌工科専門学校　第２校舎　会議室

３．出席委員

常松　　哲	理事長
山口　修二	一般社団法人札幌建設業協会　専務理事兼事務局長（業界関係者）
下原　英一	㈱イーエス総合研究所　取締役執行役員業務企画部長（企業等委員）
松本　　勲	モエレ町内会員
三上　敬司	校長
大坂　道明	環境土木工学科長
岩瀬　　聡	造園緑地科長
阿部　峰雄	測量情報科長　兼　環境土木・造園施工管理科長

４．欠席委員

伊藤　幸一	理事
奥内　尚史	一般社団法人札幌造園協会　理事長（業界関係者）
嘉屋　幸浩	㈱園建　代表取締役（企業等委員）
古城　　学	常松学園札幌工科専門学校同窓会長

５．資　　料　令和３年度後期　学校の取り組み状況・教育課程編成に関する報告

※学校関係者評価委員会

文科省の示す「学校評価ガイドライン」に則り、下記の項目について全教職員による学校自己評価を実施している。学校関係者評価委員会は、その自己評価結果を評価し、自己評価結果の客観性・透明性を高めることや、専修学校と密接に関係する者の理解促進、連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

Ⅰ　教育理念・目標	Ⅱ　学校運営	Ⅲ　教育活動
Ⅳ　学修成果	Ⅴ　学生支援	Ⅵ　教育環境
Ⅶ　学生の受け入れ募集	Ⅷ　財務	Ⅸ　法令等の遵守

令和３年度後期　学校の取り組み状況・教育課程編成に関する報告

Ⅰ　教育理念・目標

＜令和３年度前期の報告＞
【状況と対応】
① 造園緑地科で入試制度の変更（AO 入試）をし、定員 15 名のところ 17 名の入学者があった。自立に向けて不安を抱える学生、助けを必要とする学生からの入学相談が増加している。教育理念である「少人数制による親切・丁寧な分り易い・分かるまでの教育」にのっとった入試方法であると評価されている。
② AO 入学生 13 名のうち 1 名が学力不足により 6 月より休学し、現在就職活動中である。また、社会人入学 1 名が進路変更により 7 月に退学している。入学者 17 名、在校者 15 名。また、入試制度の変更により入学生の増加にはつながったが、学力試験を行っていないため、学習についていけるかの心配があった。また、数学担当教員から、通常授業における指導が困難な学生がいることへの問題提起があった。
　休学している AO 入学生は、コロナ禍によるオンライン授業の実施により対面授業が実施できず本人に対し寄り添った教育が行えなかったことが休学につながったと考えている。
　社会人入学生には屋外での 3 級造園技能士実技対策の実習授業での負担が大きく指導配慮が不足したことが進路変更につながったと考えられる。
　教育理念をより体現するために、カリキュラム変更により補講時間を確保し、学力、考え方、年齢など多様な学生に対し丁寧な指導ができるよう体制を組んでいるが、あらためて教科指導教員と HR 担任が情報の共有とすべての教科目において教育指導方針の徹底を図り、細やかな指導を行うこととした。数学の指導困難学生に対する対応も同じである。
③ 造園系で 1 名、土木系で 1 名、事務局で 1 名の、計 3 名の教職員を増員した。
　結果、業務分担の改善がなされ、進路、学習、生活相談など学生指導を以前よりは落ち着いて細やかに行えるようになった。残る 15 名の学生は現在学習を継続中である。
④ 保護者および委託先企業担当者には、体験入学と入学式ガイダンスの際に学校教育目標についての説明を行った。また、入学後も HR 担任と密に連絡を取っている。
　学習上の問題について保護者や企業関係者からの抗議は頂いていない。
　生活面で下宿のオーナと学生のトラブルについて相談があり、学校として問題解決を行った。オンライン授業や生活面で下宿先には多くの協力をいただいている。学生生活の確保の意味で、下宿との連携も十分に行う予定である。

委員の意見
（下原）高校時点からの学力低下の話が聞かれる。大学へ求人活動に行っても、コンサルで活躍できるようなレベルの学生がいないと言われる。学校も経営があるので学生数を確保しなければならないが、若年人口減少のなか学生を選ぶは難しい。入学した学生に粘り強く指導するしかない。札幌工科で授業をしている顧問たちの話を聞くと、先生のせいまたは学生の意識が低く、寝ている学生が半分以上いると聞く。先生側も授業の工夫はしていると思うが、なかなか成果が出ていないようだ。学生は目的意識をしっかり持って入ってきているのか疑問がある。
（三上）授業中寝ている学生の多くは生活習慣が乱れている。生活習慣の指導については、口頭指導するに留まっている。授業でプロジェクターを使用すると教室が暗くしなければならないため眠気を誘発させてしまう面がある。
（阿部）担当している環境土木施工法の授業は、将来の仕事内容につながる。板書し書かせるようにしたり、章末問題をやらせたりするなど、学生の手を動かすようにしている。
（三上）授業のオンデマンド配信という方法もあるが、録画したものを UP する作業の手間を考えると現実的ではない。
（下原）顧問方にも効果的な授業の方法を共有してもらいたい。
（岩瀬）AO 入学の学生は志望動機を問うて入ってきているので意識が高いと感じている。企業委託生は会社の意向が強く、本人の意識が低い場合もある。
（大坂）確かに委託生の中に修学意識の差がある。勉強したくないから就職した学生と、進学できるからその会社を選んだ学生がいる。委託生としてプライドを持って学習するよう指導している。
（下原）委託生として入学させるか、させないか悩んでいる会社がある。企業からも学生本人に入学させる目的を話し、納得させた上で入学させなければならない。

＜令和３年度後期の報告と令和４年度の改善方針＞

①卒業生

環境土木２年生１４名、造園緑地科２年生１名、測量情報科１５名、環境土木・造園施工管理科１８名、計４８名（定員数７０名　入学者数４９名）全員が就職先を決定し卒業した。

②在校生

在校生環境土木工学科１９名、造園緑地科１５名、計３４名（入学時学生数３８名、定員数４０名）が２年生に進級した。

③新入生

新年度は環境土木工学科１７名、造園緑地科８名、測量情報科１８名、環境土木・造園施工管理科２３名、計６６名（定員数７０名）が入学し、令和４年度在校生は１００名（総定員数１１０名）となっている。

教育理念　**少人数制による親切・丁寧な分り易い・わかるまでの教育**

教育目標　**〇基礎学力の向上を図る〇基礎的な専門知識と技術の習得〇素直な心と良き社会人となるためのマナーの涵養**

「人間力」を向上させ、その人間が入った会社・組織に貢献できれば、社会への貢献になり自らの人生を確実なものにしてゆける。

少子化により労働者人口の減少と価値観の多様化が進む中、様々な変化へ適応できる人材の育成が求められ続けると考えることから、教育理念・目標は本校の目指すものとして適切だと考える。離職率を低下させるために、特に社会人基礎力の向上を図る。

本校が選ばれ続ける学校であるために、学生、卒業生、業界・企業関係者、保護者、高校、地域住民も本校の教育理念・目標の理解を促す。

委員の意見

（下原）体験入学には、保護者や企業が必ず同伴しているのか？

（三上）全員ではない。

（下原）学生本人を含め、随行者にも本校の理念を理解してもらった方が良い。

（三上）随行者を含め体験参加者にはアンケートを実施し、本校の印象などを伺っている。

（下原）企業からも離職率についての話題が挙がる。ただ学校に入って卒業するだけが目的ではなく、学校で何を最低限やらなければならないか、個々が目的意識を持っていなければ意味がない。顧問方の話を聞くと、学生が当面の目標が何なのか押さえておらず、授業に集中できていないと感じるようだ。定期試験に合格するだけが目的なのか？毎回決まった学生が机に突っ伏している様子もある。教える側も学生を集中させ興味を引くような教え方をしなければならないが、学生の目的意識も低いのでは。授業態度を改善する工夫をしてほしい。

（三上）一方的な講義にすると学生は寝てしまうので、ノートを書かせ計算などの作業させるようにしている。学生にはガイダンス時に体調管理のことも伝えている。

（阿部）古いやり方かも知れないが、寝ていれば起こして、出ていけということもある。

（下原）厳しさやメリハリも必要だと思う。
（阿部）学生を怒ると気持ちが落ちこんで辞めてしまうと求人企業から聞いているので難しい所。
（下原）逆に、怒らないと自分に関心がないと感じる若手もいるらしい。匙加減は難しい。
（岩瀬）やる気はあっても勉強の習慣がない学生や、苦手なものに取り組まない傾向がある。各教科の目的・到達点について 1 コマかけて指導するようにしている。個々の教科の内容だけでなく、他教科とのつながりも意識し、学生に伝えるようにしている。
（大坂）講師の先生の講義は専門的で大変興味深い内容であるが、学生にとっては難しい。短期的な目標を持たせると効果的である。
（下原）そういった情報を講師にも共有してもらいたい。

Ⅱ　学校運営

＜令和３年度前期の報告＞

・令和４年度入学生の出願・合格数（11 月 18 日現在）

	応募総数	①　合格							②不合格	③受験辞退・欠席	④合格辞退	昨年同時期
		一般	学校推薦	指定校推薦	社会人	企業委託	AO	合計				
土木	10	7			1	2		10				14
造園	5			2	1		2	5				4
測量	10	1				9		10				6
施工	19					17		17	1			15
合計	44	8		2	2	28	2	42	1			39

【状況と対応】

① 定員確保

- 昨年同時期と比較して、１年制学科の出願は増加しているが、２年制の環境土木工学科が少ない。造園緑地科では指定校推薦入学制度を導入し、２名出願された。AO 入学者は２名である。企業奨学金制度の利用による入学生をまだいない。学生募集の継続が必要である。
- 社団法人北海道造園緑化建設業協会のご協力をいただき今年度より企業奨学金制度を導入したが、企業奨学金制度の利用による学生の入学には至っていない。新型コロナウイルス感染症の影響により、春期に高校訪問ができなかったため、高校や企業への PR は文書送付のみに留まった。緊急事態宣言解除以降、高校・企業訪問や進学相談会への参加を再開し、今年度より入学相談室に来た井川順一次長（㈱イーエス総合研究所顧問）により、高校訪問と並行し全道及び東北地方の造園建設業への造園緑地科の教育内容と企業委託制度及び企業奨学金制度の紹介を 11 月より行っている。
- 環境土木工学科では、北海道開発局との連携による学生募集は、コロナウイルスの関係で高校訪問に同行していただくことは叶わなかった。北海道開発局の採用担当者には本校の高校訪問の状況を共有し、開発局からも高校の進路指導部へアプローチしていただくことになっている。i-Construction による企業連携は検討中である。

② 人員確保

- 造園系女性教員１名、測量系教員１名、事務１名の人員補充があり、事務局員が高校訪問や学校説明会など入学相談業務を行っている。
- 実習教員が増員されたことにより、インターンシップなどの就職指導や学習計画をはじめ不得意教科の指導など学習指導、さらに、学校生活の指導など学生に対し細やかに対応が改善しつつある。教科も教育目標にのっとり共同で指導を行える体制に向けた大きく変化した。ハウス内外植物管理や道路に面した花壇づくり、樹木の手入れなど実習地をはじめとする学校環境整備も労力を回すことが出来るようになり、学校活動をアピールできるようになってきていると考える。
- ２クラスに対し担任１人体制などまだ業務遂行に改善が必要である。教員の業務対応力を向上させて協同体制を早期に実現していく必要がある。

委員の意見
（下原）AO と指定校推薦は学生募集に有効であると考える。開発局幹部の話では、日本工学院の公務員コースから９名採用するという。人員集めを優先にして、技術は入局してからという考えである。公務員コースの学生は、１年で受からなければ２年目もう一度入り直すことも可能だという。公務員、行政土木職は憧れの職業である。本校の公務員の採用実績をもっとアピールしてほしい。
（下原）行政ではこの５年で i-construction や 3D の技術を定着させようとしているが、札幌工科もそれに対応していますか？もちろん測量の基礎ありきですが、学校としても企業と連携して情報化施工などの新技術について学生に目で見て触らせてほしい。行政の方針についていかなければならないので、学校に期待している。
（阿部）㈱岩崎と連携で、3D、CIM、i-construction の活用について講義していただいている。
（三上）今後、札幌建設業協会との連携で講義してもらうこともできる。
（下原）連携してもらうことで会社の専門学校理解も進むと思う。
（嘉屋）i-construction に対し 50 万の補助金が出ており、行政として取り組んでいくのに間違いない。当社でもマシンコントロールの施工を試験的に行っている。若手社員は測量器械の扱いには長けているが、それを確かめるための測量の基礎知識がない。知識の上で新技術を取り入れることができれば会社の力となる。連携企業を紹介することができるので相談してほしい。
（古城）教職員の増員があってなによりです。日本工学院と本校の違いとして、①キャリア（本校は資格認定校で実務経験短縮があるが、日本工学院にはない）、②技術力（基礎技術は本校が長けている）が挙げられる。教育理念＝基礎技術を持って卒業することを揺るぎないものにして欲しい。

＜令和３年度後期の報告と令和４年度の改善方針＞

・令和４年度入学生の出願・合格数（最終）

	応募総数	② 合格							②不合格	③受験辞退・欠席	④合格辞退	入学
		一般	学校推薦	指定校推薦	社会人	企業委託	AO	合計				
土木	19	9			4	4		17		2		17
造園	9			3	1		5	9			1	8
測量	20	1			1	17		19	1		1	18
施工	23					22		22	1			22
合計	70	10		3	6	43	5	67	1			65

※施工に復学者１名が加わる

「少人数制による親切・丁寧な分り易い・わかるまでの教育」を一層強化（意識）し、お客様の満足しうるサービスを提供する。

①２年制環境土木工学科、造園緑地科の定員充足率向上
・お客様が求めているサービスの提供
（ア）学生、保護者、企業等が求めるサービスを把握し、教育にフィードバックする。
（イ）進学相談室と連携し学生募集時より入学生のキャリアプランの相談に乗り、カリキュラム履修、授業内容、教育方法及びキャリアプランを計画する。

②独自性（ブランド）をアピールし、関係者から必要とされる学校を目指す。
・土木・造園・測量と建設部門を総合的に学べる本校の潜在能力を最大化し、建設系専門学校として「札幌工科専門学校」をブランド化する。

（ア）学科を超え教員が連携し、CIM 化に対応した教育を作る。
（イ）GIS ソフト、３ĐCAD の導入
（ウ）教員間の研修の実施

③労働生産性・付加価値の向上をめざす。
・IT の活用により教育においても労働生産性・付加価値の向上を図る。
（ア）㈱イーエス総合研究所 IT 管理課、ソフト会社による教員への研修
（イ）教員間研修
（ウ）IT インフラ整備

委員の意見

（下原）CIM や 3DCAD については現教員でやるのか？外部から講師を招くのか？設備はあるのか？

（三上）設備や器機はあるので、学内で実施することができる。教員同士で技術を指導し合って、学生に落とし込む体制。

（阿部）一部は㈱岩崎様に講義してもらっている。

（下原）CIM は行政も求めている内容である。なかなか行政内にも指導できる人間がいないので、学校でさわりだけでも指導してもらいたい。

（岩瀬）本校で持っているものを駆使して、学科単体でなく学校全体で業務効率化できるようにしているところ。

（下原）イーエス総研の設計部も国交省の目標にはまだ遅れている。学校と共通するものがあれば互いに指導しあうことも可能と考える。岩見沢農業事務所で現場見学等も積極的に協力したいという話がある。ドローンや北海幹線の滅多に見ることができないシールドトンネルなどの現場を見せることが可能。机上の学習に加え GIS の現場を見せるということが有効と考える。

Ⅲ　教育活動

＜令和３年度前期の報告＞

①　コロナ禍における授業展開
・５月に下宿先で学生１名の新型コロナウイルス感染が確認されたが、臨時休校し、教職員・クラスメイト・下宿生に PCR 検査を実施し、クラスター化することなく収束することができた。
・対面授業を基本とするが、やむを得ずオンライン授業を実施する期間もあった。オンライン授業をすることで、授業時数不足にならず所定のカリキュラムを履行できている。
・ディスプレイ・カメラ・マイク・プロジェクターなどの機器は一部㈱イーエス総合研究所より借用し授業を展開した。学生の受信機の不統一や通信環境など整備に更なる課題が生じた。
・オンライン授業は同時双方向のコミュニケーションが取れることが必要とされている。オンライン授業では学生の習熟度に差が大きく出ることがわかり、授業内容や資料および機材など検討が必要になっている。オンラインシステムの拡充を検討している。
・９月の緊急事態宣言中は、合同授業における密を避けるため、教室を分け、一方は対面授業、もう一方の教室にはオンラインで生配信するなどの対策を行った。日頃の体温チェックや消毒、加湿、換気などのコロナ対策を継続し、その後感染者を出していない。
・昨年に引き続き、感染拡大防止の観点から体育大会や学園祭など社会性を高める活動が出来なかった。
・slack や Zoom などコミュニケーションツールを使うことでより確実に学生と報連相が図られるようになった。

②　入学定員の確保と若手教員の確保
・Ⅱ学校運営【状況と対応】参照。継続した学生数確保に努める。教職員の増員により学生指導上の改善がみられたが、教職員の質の向上も図る必要がある。

委員の意見
（岩瀬）文科省、厚労省、道の指針に基づき教育を継続している。OA 機器での授業は便利で効率化する面もあるが、対面で学生の習熟度の確認をすることが叶わず難しい。板書は原始的であるが、手を動かしてまとめることの有効さもわかった。
（下原）２年間感染者が１名しか出なかったことは評価できる。企業側としては、コロナ禍で委託生を入学させた１年間は果たして成果があったのか疑問もあるが、先生方はできることを最大限やってくれていたと思う。タブレット導入はいかがか？
（三上）導入を検討しているが、現在の学校の通信環境だと難しく、全て入れ替えなければならない状況。
（下原）現場でもタブレット普及が進んできている。学生の興味を惹けるツールとして、近い将来導入を目指してほしい。
（岩瀬）教育に関しては善し悪しがあるが、更なる効率化のため検討したい。

＜令和３年度後期の報告と令和４年度の改善方針＞
①タブレット導入、IT インフラ整備をおこなう。
②クラスター発生を防ぐ対策を引き続きおこない、対面授業を確保する。
③対面授業において社会人基礎力の向上を図る。
　１８歳の成人により自己責任が求められる中、HR、インターンシップ、現場見学、実習、演習、就職指導を通じて「協調して働く」ことの理解を促し、職場に定着できる教育をおこなう。
④将来の学校の中核を担う若手教員の確保をする。

委員の意見
（三上）その後、タブレットよりノート PC の方が機能的と考え、導入を検討しているところ。Wi-Fi 環境については同窓会に協力いただき、同時に 100 台を繋いでも耐えられる環境を整備する予定。
（阿部）昨年度は学校行事が行えなかったが、令和 4 年度は現在体育大会実施に向け準備している。バレーボール、バドミントン、卓球などの接触のない競技を行う。

Ⅳ　学修成果

＜令和３年度前期の報告＞
１　退学及び休学者（令和３年 11 月 18 日現在）
［退学］
・造園緑地科１年　１名（進路変更）
［休学］
・造園緑地科１年　１名（オンライン授業への適応困難）
［退学または休学を検討中］
・造園緑地科２年　１名（就職失敗（希望官庁不採用）による虚脱）

２　資格取得及び就職状況（令和３年 11 月 18 日現在）
［資格］
・２級造園技能士　１／１名合格
・２級園芸装飾技能士　受験者なし
・３級造園技能士　１５／１５名合格（100%）
・３級園芸装飾技能士　１５／１５名合格（100%）
・３級ブロック建築技能士　２／２名合格（100%）
・２級土木施工管理技士（１次）　後期　卒業年次の受験者全員合格見込み（自己採点）
・２級造園施工管理技士（１次）　後期　２名受験
・２級管工事施工管理技士（１次）　後期　４名受験
・２級建築施工管理技士（１次）　後期　１名受験
・２級ビオトープ施工管理士　１５名受験

［就職］
学生の就職志望状況

学　科	学生数	うち、企業委託	うち、民間志望 （委託生含む）	うち、公務員志望
環境土木工学科２年	14	2	4	10
造園緑地科２年	2	0	1	1
測量情報科	15	15	15	0
環境土木･造園施工管理科	18	15	18	0

・北海道職員（総合土木Ａ）　最終合格　　１名
・　　〃　　（企業局Ａ）　　最終合格　　１名
・　　〃　　（農業土木Ａ）　最終合格　　１名
・国家公務員（一般・大卒・技術北海道）　最終合格　　１名
・　　〃　　（一般・大卒・林学）　　　　最終合格　　１名
・　　〃　　（一般・高卒・技術北海道）　最終合格　　３名
・北海道職員（総合土木Ｂ）　最終合格　　４名
・　　〃　　（農業土木Ｂ）　最終合格　　１名
・札幌市（短大の部）　土木　最終合格　　１名
・江別市　　　　　　　土木　最終合格　　１名
・留萌市　　　　　　　土木　１次合格　　１名
・民間企業　環境土木工学科　内定　　　２名
　　　　　　造園緑地科　　　内定　　　１名
　　　　　　土木施工管理科　内定　　　３名
・企業委託生　３２名

・２年制の環境土木工学科および造園緑地科の令和２年度入学生（現２年生）は民間志望者が少ない。
・就職後の勤続状況も含めて学修成果とし、今後、就職後の卒業生の状況について企業等と連携して状況を把握し、教育課程編成に生かしていく。

委員の意見
（下原）休学の経緯は？
（岩瀬）意欲は持っている学生だが、勉強面でオンライン授業中に十分なフォローができなかったことが悔やまれる。

＜令和３年度後期の報告と令和４年度の改善方針＞

1　退学及び休学者

［退学］

・環境土木工学科１年　２名（学業不振、家庭の事情）
・造園緑地科１年　　　２名（進路変更）
・造園緑地科２年　　　１名（就職失敗（希望官庁不採用）による虚脱）

［休学］

なし

2　資格取得及び就職状況

［資格］

・２級造園技能士　　　　１／１名合格
・２級園芸装飾技能士　　受験者なし

・３級造園技能士　　　　　１５／１５名合格（100%）
・３級園芸装飾技能士　　　１５／１５名合格（100%）
・３級ブロック建築技能士　２／　２名合格（100%）
・２級土木施工管理技士（１次）　　後期　２８／２８名合格（100%）
・２級造園施工管理技士（１次）　　後期　　２／　２名合格（100%）
・２級管工事施工管理技士（１次）　後期　　１／　４名合格（25%）
・２級建築施工管理技士（１次）　　後期　　１／　１名合格（100%）
・２級ビオトープ施工管理士　　９／１５名合格（60%）
・生物分類技能検定３級　　　　１／　１名合格（100%）
・エクステリアプランナー２級　１／　１名合格（100%）

［就職］

学生の就職志望状況

学　科	学生数	うち、企業委託	うち、民間企業（委託生含む）	うち、公務員
環境土木工学科２年	14	2	5	9
造園緑地科２年	1	0	1	0
測量情報科	15	15	15	0
環境土木・造園施工管理科	18	15	18	0

・北海道職員（総合土木Ａ）　最終合格　　１名
・　　〃　　（企業局Ａ）　　最終合格　　１名
・　　〃　　（農業土木Ａ）　最終合格　　１名
・国家公務員（一般・大卒・技術北海道）　最終合格　　１名
・　　〃　　（一般・大卒・林学）　　　　最終合格　　１名
・　　〃　　（一般・高卒・技術北海道）　最終合格　　３名
・北海道職員（総合土木Ｂ）　最終合格　　４名
・　　〃　　（農業土木Ｂ）　最終合格　　１名
・札幌市（短大の部）　土木　最終合格　　１名
・江別市　　　　　　　土木　最終合格　　１名
・留萌市　　　　　　　土木　最終合格　　１名
・砂川市　　　　　　　土木　最終合格　　１名
・函館市　　　　　　　土木　最終合格　　１名
・民間企業　環境土木工学科　内定　　　３名
　　　　　　造園緑地科　　　内定　　　１名
　　　　　　土木施工管理科　内定　　　３名
・企業委託生　３２名

①退学者の低減

将来のキャリアプランを作り上げるため、一人ひとり細やかにコミュニケーションをとることを心掛ける。補習時間を使い、個別のフォローを行う。遠隔になった場合でもIT機器を使いこなすことにより教員学生間の連絡相談を取り続ける。

②就職先企業訪問を行い、就職後の学生の様子を把握し、組織的なフォローアップをおこなう。

１級土木・造園施工管理技士、樹木医など実務経験後に取得する資格などの受験を考慮した授業内容の展開を行う。

委員の意見

（阿部）環境土木工学科 1 年の退学者のうち、家庭の事情…日本学生支援機構から奨学金を借りていたが、保護者が生活費に使ってしまったため学費が支払われなかった。学業不振…課題が提出されず粘り強く個別指導をしたが、学生が遅刻をし約束を違えたため留年とした。

Ⅴ　学生支援

＜令和３年度前期の報告＞

①　経済的支援
- 「国の修学支援新制度（入学金・授業料減免＋給付型奨学金）」を５名の学生が利用している。対象校の要件の１つとして、直近３年度の定員充足率が８割以上であることが求められる。

②　コロナ禍支援
- 職域接種による集団ワクチン接種の開催を行った。
- 新型コロナウイルス感染症に関する国や自治体の経済的支援などについて、担任からの連絡やslackでメッセージ送信し周知するとともに、活用している。

③　就職後支援
- 学校で作成している同窓生名簿の活用を行う。
- 入学相談室を含め教職員が卒業生の就職した企業へ訪問し、状況の聞き取り実施をし、組織的に卒業生の把握と学校の情報として共有に努めていく。
- 企業連携し卒業後の相談に乗ることのできる関係づくりを学校として積極的に行っていく。
- HR担任以外との情報共有のためのプラットフォームを作る。

委員の意見

（下原）全国的にも就職後の定着率が低い現状がある。イーエス総合研究所の顧問に就職後の状況を聞いてもらうことも可能と考えている。就職後2～3年のアフターケアを学校として行えれば力強いと考える。

（三上）就職後の状況について、一部は情報が入っている。卒業後の情報をつかむことは大事なので、前向きに考えていきたい。

＜令和３年度後期の報告と令和４年度の改善方針＞

①経済的支援の継続

②コロナ禍支援の継続

③就職後支援の継続

④社会人教育の実施

委員の意見

（下原）学生のコロナワクチンの接種率は？

（三上）2 年生は 1 名を除き全員 2 回目まで受けているが、新入生はまだ把握していない。3 回目については最近接種が始まったところ。

（岩瀬）離職率について重要だと考えている。能力的についていけない、仕事が面白くない、公務員は初期の給与が低く民間の方がよく見える等を聞いている。資格を取らせて卒業させることを目標とするのではなく、職場に定着して活躍させることを目標として教育をすることを考えている。

（下原）今の若い人は自分に都合の良い情報だけを入れ、目先のことだけで判断しがちである。次の受け入れ先もあるので辞めやすい。公務員の「技術職」ということを浸透・理解させてほしい。社会人入学生の公務員定着率はどうか？

（岩瀬）私の知る範囲では高い。

（下原）やはり一度社会に出た者の方が落ち着いて仕事に向かうので、そのような学生も増えてほしい。

（阿部）企業委託生でも、1 年間会社に勤めた後に入学する者の方が伸びる。

（下原）農業土木の方にも入っているのか？

（三上）昨年度は 1 名入っている。

（岩瀬）キャリア教育の一環として手伝える。新卒教育を継続していく。卒業後の支援まで（1 級施工管理の指導など）学校として行えるようにする。

（下原）先に昔ながらの指導という話があったが、仕事で札幌工科の卒業生と会うと、〇〇先生にお世話になったという言葉がもらえ、ネガティブな話は出ない。今後も厚い指導をお願いしたい。

Ⅵ　教育環境

＜令和３年度前期の報告＞

①　コロナ禍における対応

- 体温検知タブレット、OA 機器、ソフトの導入、また、イーエス総合研究所より実験機器を貸していただくなど協力をいただきオンライン授業と分散授業を実施し、カリキュラム履修を遅滞なく行うことが出来ている。
- プロジェクターの劣化によりスクリーンが不鮮明になっていることや、画面の大きさ、マイク・スピーカーの問題などにより学生と教員の十分な意思の疎通が出来ず、教育効果が上がりにくい部分がある。今後、さらに適正な OA 機器の導入を計画している。
- 全教員による朝の清掃・消毒などにより、衛生的な環境が保持されている。

②　教育環境の状況と課題

- 教職員増員により通常の教育体制に近づくことが出来た。
- 校舎等の補修計画がある。
- 情報共有システム（サイボウズ）と slack および google フォームの活用。
- シナジー効果のある所に積極的に OA 機器を導入する。

委員の意見

特になし

＜令和３年度後期の報告と令和４年度の改善方針＞

①コロナ禍後においても、情報通信技術による仕事が求められることを想定し、IT インフラの整備を行い、タブレットの導入による教育を行う。

②GIS，CAD ソフトの導入、CIM 化に対応した授業構築

③第一校舎の改修を行う。

委員の意見

（岩瀬）学校設立 40 周年授業として、同窓会より IT インフラの整備を進めてもらうことになっている。

（古城・書面）学校創立 40 周年記念をして、モエレ会では、令和 4 年度の改善方針『ＩＴインフラの整備』を、強力に支援することを検討しています。

Ⅶ　学生の受け入れ募集

＜令和３度の報告＞

学科＼入学年度		H28	H29	H30	H31	R2	R3
環境土木工学科	体験参加数	37	24	33	37	23	34
	出願数	32	24	29	33	19	23
	入学数/定員	24/25 名	21/25 名	26/25 名	23/25 名	15/25 名	21/25 名
	定員充足率	96%	84%	104%	92%	60%	84%
	委託生の割合	2/24 名 8.3%	3/21 名 14.3%	1/26 名 3.8%	4/23 名 17.4%	2/15 名 13.3%	0/21 名 0%
造園緑地科	体験参加数	16	10	15	8	12	26
	出願数	13	8	10	5	2	18
	入学数/定員	12/20 名	6/20 名	8/20 名	5/20 名	2/20 名	17/15 名
	定員充足率	60%	30%	40%	25%	10%	113%
	委託生の割合	0/12 名 0%	0/6 名 0%	0/8 名 0%	0/5 名 0/%	0/2 名 0%	0/17 名 0%
測量情報科	体験参加数	6	12	6	17	10	11
	出願数	8	20	15	15	15	16
	入学数/定員	8/10 名	19/10 名	12/10 名	14/10 名	15/10 名	15/15 名
	定員充足率	80%	190%	120%	140%	150%	100%
	委託生の割合	5/8 名 62.5%	13/19 名 68.4%	9/12 名 75%	13/14 名 92.9%	15/15 名 100%	15/15 名 100%
環境土木・造園施工管理科	体験参加数	4	8	7	8	19	5
	出願数	20	17	22	20	33	21
	入学数/定員	19/10 名	15/10 名	20/10 名	18/10 名	30/10 名	20/15 名
	定員充足率	190%	150%	200%	180%	300%	133%
	委託生の割合	18/19 名 94.7%	13/15 名 86.7%	20/20 名 100%	16/18 名 88.9%	30/30 名 100%	17/20 名 85%
全 体	体験参加数	63	54	61	70	64	65
	出願数	73	69	76	73	69	78
	入学数/定員	63/65 名	61/65 名	66/65 名	60/65 名	62/65 名	73/70 名
	定員充足率	96.9%	93.8%	101.5%	92.3%	95.4%	104%
	委託生の割合	25/63 名 39.7%	32/61 名 52.5%	30/66 名 45.5%	33/60 名 55%	47/62 名 75.8%	32/73 名 43.8%

①　学生受け入れ状況（Ⅱ学校運営〈報告〉参照）

- 令和２年度の造園緑地科は体験入学参加者 12 名に対し入学者２名に留まった。
  - └　造園緑地科に興味を持つ人の傾向は、環境問題または生き物に対する関心が高く、身体的活動を好む。
  - └　数学が不得意であるか力はあっても苦手意識が強く、帰納的思考をする。理系科目についても不得意感が強く、関心は学修に対し強い不安がある。
  - └　学校に対して本人に合わせた指導により無理なく、実力が向上することを期待している。
  - └　社会の中の環境問題の高まりの中、造園緑地に対する興味関心を持つ人は一定数いる。
  - └　業界からの人材募集は強い。
- コロナの影響で、大学志望から進路変更した者や大学中退者の入学が増加した。

② 入学者の掘り起こし（Ⅱ学校運営〈報告〉参照）
- 業界の紹介、企業の担い手の確保
  - └（一社）北海道造園緑化建設業協会との連携による本校の紹介
  - └ 企業奨学金制度の活用
  - └ 本校入学相談室と各会員企業の連携
  - └ 高校進路相談室と就職相談室、関連学科との連携
- 自信をつける教育。少人数制わかるまでの教育を実現。きめ細やかな対応ができる体制。成長を実感できる教育の実践。
- 希望者に合わせた入試制度

③ 学生の進路確保
- 企業・業界と連携した教育課程編成
- 企業の雇用の安定

委員の意見
（下原）“技術職”公務員への近道を強く打ち出してほしい。公務員試験の対策だけ行った学生と、技術教育を受けた学生の違いについて、本校の優位性を示してほしい。入局した後、安心して仕事を任せられる人材であることを示してほしい。
（三上）高校訪問でも誤解のないよう“技術職”をPRしたい。
（阿部）学生の中にも、技術職がよくわかっていない者がいるので、学内で技術職の業務説明会を実施している。

＜令和３年度後期の報告と令和４年度の改善方針＞

学科＼入学年度		H29	H30	H31	R2	R3	R4
環境土木工学科	体験参加数	24	33	37	23	34	22
	出願数	24	29	33	19	23	19
	入学数/定員	21/25名	26/25名	23/25名	15/25名	21/25名	17/25名
	定員充足率	84%	104%	92%	60%	84%	68%
	委託生の割合	3/21名 14.3%	1/26名 3.8%	4/23名 17.4%	2/15名 13.3%	0/21名 0%	4/17名 23.5%
造園緑地科	体験参加数	10	15	8	12	26	13
	出願数	8	10	5	2	18	9
	入学数/定員	6/20名	8/20名	5/20名	2/20名	17/15名	8/15名
	定員充足率	30%	40%	25%	10%	113%	53.3%
	委託生の割合	0/6名 0%	0/8名 0%	0/5名 0/%	0/2名 0%	0/17名 0%	0/8名 0%
測量情報科	体験参加数	12	6	17	10	11	13
	出願数	20	15	15	15	16	20
	入学数/定員	19/10名	12/10名	14/10名	15/10名	15/15名	18/15名
	定員充足率	190%	120%	140%	150%	100%	120%
	委託生の割合	13/19名 68.4%	9/12名 75%	13/14名 92.9%	15/15名 100%	15/15名 100%	16/18名 88.9%
環境土木・造園施工管理科	体験参加数	8	7	8	19	5	8
	出願数	17	22	20	33	21	23
	入学数/定員	15/10名	20/10名	18/10名	30/10名	20/15名	22/15名
	定員充足率	150%	200%	180%	300%	133%	146.7%
	委託生の割合	13/15名 86.7%	20/20名 100%	16/18名 88.9%	30/30名 100%	17/20名 85%	22/22名 100%
全 体	体験参加数	54	61	70	64	65	56
	出願数	69	76	73	69	78	71
	入学数/定員	61/65名	66/65名	60/65名	62/65名	73/70名	65/70名
	定員充足率	93.8%	101.5%	92.3%	95.4%	104%	92.9%
	委託生の割合	32/61名 52.5%	30/66名 45.5%	33/60名 55%	47/62名 75.8%	32/73名 43.8%	42/65名 64.6%

①学生募集

・２年制環境土木工学科、造園緑地科の学生数の確保

（ア）入学者の掘り起こし

（イ）入学相談室との連携強化

（ウ）求めるサービスの提供

②進路確保

・安定した雇用確保

委員の意見

（下原）道外からの入学生はいるか？

（三上）数名入っている。

（下原）北海道に来た理由は？

（三上・岩瀬）北海道に住みたい、少人数制、就職率の高さと聞いている。

（下原）大学でも本州からの学生を確保しないと定員割れする状況である。今後は道外の募集も考えた方が良いと考える。

（三上）昨年度から入学相談員の井川が東北の高校も訪問している。

（下原）どこの地域にも一定数の希望者がいると思うので、単発でなく継続していく必要がある。

（三上）道外からも資料請求があるので、その方の出身校を中心に訪問する。

（岩瀬）高校訪問と同時に造園系の企業も訪問し、企業にも認知を広げている。

Ⅷ　財務

＜令和３年度前期の報告＞

・今年度の入学生は定員 70 名に対して 73 名であったが、環境土木工学科だけが定員 25 名に対して 21 名の入学者となり、若干定員を下回った。一方で、ここ数年間は入学生の減少傾向が際立っていた造園緑地科が、従来の入学制度に加えて AO 入試と推薦入学を導入したことで学生増に繋がったものと思われる。環境土木工学科が定員を下回った主な原因として、環境土木・造園施工管理科土木コース（企業委託生）に若干引っ張られたものと推測される。しかし、コロナ禍で全体の定員を僅かでも上回ったことは良く健闘したものと考えている。

・以上のことから、前年度の入学者を 11 名上回ったことや北海道職員の技術研修の収入も含めて、昨年度より 1000 万円強の収入が増えたこともあり、厳しい財政の中にあって少しでもプラスの方に向けることができたと考えます。来年度は校舎の大々的なメンテナンスを予定しているため、その当たりを考慮し入学者をできるだけ多く確保できればと考えている。

委員の意見

（下原）官も民も若手技術者を欲している中で、本校の重要性を認識してもらっている。

（阿部）北海道職員の技術研修の受講者の中には、日本工学院公務員コースを卒業した方や、大卒でも土木以外を卒業した方がいる状況。

＜令和３年度後期の報告と令和４年度の改善方針＞

①入学生の確保

・令和４年入学者６６名（定員７０名）、在籍者３４名（定員４０名）計１００名の学生がいる。
特に２年制学科の入学者の増加を目指す。さらに、退学者を減少させる。

②社会人教育の実施する

③教職員の協働を進める。

④生産物の販売により材料費を回収する。

委員の意見

特になし。

Ⅸ　法令等の遵守

<令和３年度前期の報告>

・専修学校設置基準に則って運営している。

・測量に関する専門の養成施設の要件のひとつである専任教員についても、現在は条件を満たしている。将来的な専任教員確保のため、計画的に教員を配置し授業経験年数を積ませている。次年度より㈱イーエス総合研究所に教員派遣を依頼し、測量実習系の授業を担当していただき、将来的に本校の専任教員として所属していただくことも検討している。

委員の意見

（下原）測量の専任教員について将来の目途が立ったということで安心しました。

<令和３年度後期の報告と令和４年度の改善方針>

①カリキュラムの履行

②学校運営体制強化

③交通事故ゼロ　事故災害ゼロ

④ハラスメントゼロ

⑤働き方改革

⑥CPD 研修

委員の意見

特になし。